
◆ 目次 ◆

- 1 「伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶」
- 2 「総領事館からのお知らせ」
- 3 「寄稿文」
- 4 「領事便り」
- 5 「広報・文化便り」
- 6 「政治」
- 7 「経済」

* * * * *

1 伊澤修在モンリオール日本国総領事挨拶

4 月に入り暖かい日が続くようになりました。皆様如何お過ごしでしょうか。

今年の冬は例年に比べて暖かかったので、寒さが苦手な小官としてはありがたかったのですが、先日、ニューファンドランドの記者とオンラインで意見交換をした際に、暖冬のせいで北部地域では湖水や海面の凍結が不十分で、いつもは厚く凍結した氷を利用して移動していたイヌイットの生活に大きな支障が生じているとの話を聞きました。気候変動が私たちの生活に大きな影響を与えている一例だと思いました。

現在、カナダはコロナウイルスの第三波に直面しています。今回の拡大には感染力の強い様々な変異種が影響していると言われています。ケベックでも感染が拡大していますが、隔離策の効果のせいか、カナダの他の地域に比べて拡大に歯止めがかかっている感じがします。また、最近ケベック州では、1 日 5 万人以上というすごい規模で市民がワクチンの接種を受けています。総領事館では感染の拡大状況とワクチン接種の動きを毎日フォローしているのですが、印象を申し上げますと、感染拡大とワクチン接種の動きがせめぎあっている感じがします。早くワクチンの接種の効果が勝って、感染者数の減少につながって欲しいと願っています。

最後に、コロナ禍による不自由な生活に対する不満も影響していると思われるのですが、残念なことに、最近、アジア人に対する差別的言動に関する事件が報じられるようになりました。日本人に対してはこれまで深刻な事件は起こっていませんが、総領事館としては、邦人の皆様の安全が脅かされないことがないよう、日頃からケベック州政府やモンリオール市の当局と緊密な連携を心がけています。

2 総領事館からのお知らせ

2021年4月、5月の休館日は以下のとおりです。

- 5月3日（月）憲法記念日（日本の祝日）
- 5月24日（月）National Patriot's Day（当地の休日）
- 土・日曜日

3 寄稿 ～「言葉の自画像」 ヴァレリー・アルヴェ（Valerie Harvey）より～

発見

私は、セントローレンス川の近くのシャルルボワで生まれました。私の生まれた地域からは、川はとても大きく見えていたので、地元の人たちはそれを「海」と呼んでいました。毎年夏になるとクジラがやってきました。子供のころ私は、その海の対岸へ渡り、別の世界を見るために航海する船長になろうと思っていました。90歳までには、9つの言語を話せるようになると自分に言い聞かせていました。子供のころの私の頭の中では、10年あれば、ひとつの言語を習得することは簡単だろうと思っていたのです！いま私は40代になりましたが、それを成し遂げることができなかったことを認めざるを得ません。でも同時に私は、自分の好きな言語が上達するのは素晴らしいことであるということも発見しました。

情熱

うまくスタートを切ることができました。私はフランス語を話し、英語を学校で学び始めました。カレッジでは、スペイン語を始めました。しかしながら、大学に入り、日本語を聞いた時には、その言語の持つ響きにすっかり夢中になってしまい、スペイン語のことは忘れてしまうほどでした！私は歌も歌いますので、音の響きというのは私にとって、とても重要な要素でした。特に日本の詩人である金子みすず氏の詩は、すべての言葉が音楽のように奏でられ、その日本語のもつハーモニーは素晴らしいものでした。縁あって、2019年には金子みすず氏の絵本「みんなちがってみんないい」をフランス語翻訳し、その素晴らしい作品を日本語・フランス語のバイリンガル本として、是澤理恵子氏のイラスト入りで出版しました。

「みんなちがってみんないい」（日本語・フランス語版）

<https://www.quebec-amerique.com/livres/jeunesse/6-ans-et-plus/albums/nous-sommes-tous-differents-et-nous-sommes-tous-beaux-10180>

是澤理恵子

<https://riekoresawa.wixsite.com/rieko/about>

研究

私にとって最初に夢中になったのは日本語の響きでしたが、そのあとは日本の文化にとっても興味を持つようになりました。夫とともに、一年間のワーキングホリデービザで京都へ向かいました。嵐山に6畳一間のアパートを見つけ、自転車であちこち走り回りながら、フランス語と英語を教えていました。日本の女性の出産・育児の現状について理解したいという思いがあり、ケベックに戻ってきた時には、社会学の修士課程を始めました。取材をするために、京都に数か月戻りました。社会学を学ぶことはとてもおもしろかったので、ケベックの「父親」と育児休暇について研究するため、博士課程に進みました。2021年の夏には日本へ戻ることを予定しており、私の研究はこのまま続いていきます。甲南大学で、日本のイクメンについて研究するため、国際交流基金の助成プログラム、日本研究フェローシップに採用になっています。

執筆

日本は私の執筆活動にも大きく影響を与えました。京都で最初の1年を過ごして戻ってきた時には、日本のことをケベックの人たちに知ってもらうため、私の日本での滞在記「Passion Japon」を書きました。また、日本の歴史や神話を、ケベックでは常の北国の気候に織り交ぜた内容の本をシリーズで書いています。日本のことを子供たちに紹介するような修士課程で書いたエッセイ文やドキュメンタリーの本なども出版しています。自分の執筆活動や動画制作（日本語クラス、ミニ・ドキュメンタリー、日本語を話そうシリーズ）を通じて、先入観やししば外国人を魅了する異国情緒を大きく超えて、日本のことをフランス語で発見してもらえるよう努めています。私の心にある二つの場所、ケベックと日本の間を繋ぐ架け橋を築ければと思っています。

ヴァレリー・アルヴェ

http://www.nomadesse.com/livres_anna.html

動画

<https://www.youtube.com/user/nomadesse4>

「Passion Japon」

<https://www.hamac.qc.ca/collection-hamac-carnet/passion-japon-534.html>

執筆活動

<https://www.quebec-amerique.com/auteurs/valerie-harvey-650>

ヴァレリー・アルヴェ

4 領事便り

(1) 領事窓口の開館時間

当地における新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、当館の感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、昨年4月1日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

●領事窓口の受付時間

10:00～12:30、13:30～15:00

※9:00～10:00及び15:00～17:00につきましても、電話による照会（緊急の場合）、メールによる照会に対応しております。

【来館時の注意点】

昨年3月25日よりケベック州政府の要請を受ける形で、当館が入居するビル管理会社側は、入居テナント従業員以外の入館を1階受付において制限しています（土日祝日等の休館時対応と同様の措置）。

当館へ来館される方につきましては、1階受付において、氏名とともに在モントリオール日本国総領事館への訪問理由を告げるにより、入館を許可されることとなっています。

(2) 2021年度の領事出張サービスについて

新型コロナウイルス流行の影響により、現時点においては領事出張サービスの実施を見合わせている状況です。

今後、各州の状況を注視しつつ、行動・移動制限が緩和されれば、領事出張サービスの再開を検討しますので、在留邦人の皆さまにおかれましてはご不便をおかけしていますが、ご理解賜りますよう宜しくお願いいたします。

(3) 在留届の内容は最新でしょうか？

海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認しております。

外国に3ヶ月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡

等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

在留届を提出されている在留邦人の皆様のうち、在留届を書面で当館に提出された方におかれては、届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館に御連絡くださるようお願いいたします。

なお、インターネット上で提出された方におかれては、御自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

（４）海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業のご案内

日本国外務省は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により生活に支障が出ている海外の在留邦人・日系人を支援するため、在外諸団体（日本人会、日本商工会議所、日系人団体等）を通じた「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤強化事業」を実施することとなりました。

同事業は、日本人会、日本商工会議所、日系人団体等が実施する、新型コロナウイルスの感染拡大防止策やビジネス環境作りの支援を目的とする内容となっています。

申請には条件がありますので、詳しくは外務省ホームページをご確認ください（個人や企業による申請は認められていません）。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/ca/cp/page22_003572.html

（５）マギル大学小西先生主催 COVID-19 家族サポートグループプロジェクトのご案内

コロナ禍での家族サポートグループ

COVID-19 家族サポートグループプロジェクトへのご案内

お子さんのいらっしゃる方々へ、

今回、モントリオールアカデミー会の協力とカナダ政府の社会科学研究協議会の支援のもとに、マギル大学大学院の小西千秋 准教授率いる研究チームが、今なお続く新型コロナウイルス感染症流行をふまえて長期の家族支援グループプロジェクトを実施することとなりました。よってこのプロジェクトへの参加者を募集しています。

このプロジェクトでは、日頃の生活行動や範囲が非常に限られた昨今の状態の中で自分と家族、特に子どもとともに健康をどう維持していけば良いのか、心と関係のケアの観点からサポートグループ形式（対面ディスカッションを通して参加者が問題を分かち合い、お互いに助け合い、学んでいくというプロセス）を通して紐解きながら

その有効性を追求していきます。ストレス解消にどんな方法がある？ コミュニケーションのやり方の違いでこんなに変わるの？ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う人種差別どう向き合えば？ 社会的、情動的スキルって何、大事なの、そしてそれらにどんな役割があるの？

このサポートグループ（対面式ディスカッショングループ）は1グループ6人から10人で、各グループ週1回のセッションが合計6回行われます。カナダ在住で、新型コロナウイルス感染拡大の影響による体験を共にシェアし、合計6回のセッションに参加できる方を募集しています。

第1回目のセッションは4月に行われる予定です（参加状況により5月開始の可能性もあります）。

このプロジェクトへの参加は任意です。参加に興味がある方は、以下のリンクにアクセスお願い致します。

https://mcgillecp.ca1.qualtrics.com/jfe/form/SV_8jqpwRdzFg58jc2?Q_Language=JA

この研究の詳細につきましては、研究責任者の小西千秋准教授（chiaki.konishi@mcgill.ca）にお問い合わせください。

どうぞよろしくお願いいたします。

研究責任者：

小西千秋 准教授

マギル大学大学院人間発達心理学研究科

3700 McTavish Street

Montreal, QC, H3A 1Y2, Canada

E メールアドレス：chiaki.konishi@mcgill.ca

（6）モントリオールアカデミー会からのお知らせ

春の心地よい日差しを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

モントリオールアカデミー会では、モントリオールで活躍されている邦人の方をお招きして、定期講演会を企画しております。

5月7日（金）に開催予定の講演会では、お二人の先生を演者にお招きし、以下の日程にて Zoom での virtual meeting を予定しております。

どなた様も、お気軽にご参加頂けますと幸いです。また、講演会后、懇親会の時間を設けておりますので、お時間許す限り是非ご参加下さいませ。演者の先生方のご講演、皆様とお会いできることを心より楽しみにしております！

日時：5月7日（金）18時30分より

講演内容：

1) 下出 孟史先生（マギル大学医学部カルシウム研究室 博士研究員）

「副甲状腺ホルモン関連蛋白による骨形成作用の分子機構解明と楽しかったモントリオール生活」

2) 大槻とも恵 先生（Le Fonds de recherche du Quebec – Societe et culture (FRQSC) Postdoctoral Fellow, モントリオール大学）

「軍都から「祈りの街」ナガサキへ：被爆地長崎の戦後復興空間を解体する」

Zoom のリンク先：

zoom リンクは以下のとおりです。

<https://umontreal.zoom.us/j/91630749023?pwd=bm56SGwyby9LZlRydIE5RzIMNkjadz09>

ミーティング ID：916 3074 9023

パスコード：509100

モントリオールアカデミー会

志賀 由己浩、富田 紀男、佐藤 宏明

5 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

（1）当館ツイッターアカウント

当館ツイッターアカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

（2）第15回日本国際漫画賞作品募集のお知らせ

4月7日から7月8日まで、日本国際漫画賞の作品募集を行っています。詳細はこちら

らからご確認ください。

<https://www.manga-award.mofa.go.jp/>

（３）日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含みます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様への御参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんので御了承ください。

●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。

１月１８日より隔週月曜１９時～２１時

参加費：無料

問い合わせ・申込先：佐藤祥子氏 sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

●オンライン展覧会「距離をめぐる１１の物語：日本の現代美術」

国際交流基金主催のオンライン展示会が５月５日まで開催されています。１１名の日本の現代美術家の作品が紹介されています。

<https://11stories.jp/11stories.jp/>

●Festival Acces Asie

５月６日から２９日まで、オンラインで開催されます。茶道や Nippon Showa Night、橋本京子氏によるピアノコンサートなどが予定されています。

<https://accesasie.com/en/>

●国際交流基金トロント日本文化センター主催イベント

日本カナダ文学交流や日本のステージ・パフォーマンスの紹介など、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

６ 政治

（１）ケベック（ＱＣ）州

・３月２日、モンリオール警察（SPVM）は、２０２０年３月～１２月にアジア系コミュニティに対する２２件の犯罪と８件のヘイト事件が確認されたと発表。２０１９年には同様の報告は３件であった。２１日、モンリオールで開催されたアジア系差別反対集会に１０００人以上が参加。ウォン（Cathy Wong）モンリオール市議、

シャレット (Benoit Charrette) 州人種差別対策大臣、起業家のチャン (Winston Chan) 氏も参加。29日、モンリオール地下鉄で中国系女性に対するヘイト事件発生。女性が車両に乗り合わせた男から、中国人、更には日本人にも対する侮辱的・脅迫的な言動を受けたもの。

- ・ 3月11日、東日本大震災発生から10年、複数の州政府関係者が追悼のメッセージを発信。

- ・ 3月11日、新型コロナ・パンデミック宣言から1年、州政府は追悼行事を実施。

- ・ 3月25日、ジラル州財務大臣は州予算を発表。コロナ禍で黒字は消え、2021年度は123億加ドルの赤字、均衡予算には7年かかる見込み。州経済再活性化のため今後5年間で40億加ドルを支出する。

- ・ 3月28日、ドウニ・コデール (Denis Coderre) 前モンリオール市長は、11月7日のモンリオール市長選再出馬を表明。30日、4年前に落選するまでコデール氏が党首を務めていた政党「Ensemble Montreal」幹部は、同氏の党首復帰決議を全会一致で可決。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 3月1日、モンリオールとラヴァルでワクチン接種対象年齢が70歳に引き下げられる。10日、州全域でワクチン接種対象年齢が70歳に引き下げられる。

- ・ 3月3日、長尾隆メディカゴ社長は連邦下院委員会で、米国が発動した国防生産法 (DPA) により、米国民が全員接種を受けるまで同社のワクチンを米国から輸出できない可能性があるとし懸念を表明。メディカゴは加連邦政府から1.7億加ドル、ケベック州政府から700万加ドルの支援を受けワクチン開発と製造工場建設 (ケベック市) を進めているが、同工場は2024年稼働を予定しており、同社が2021~2022年にカナダに供給を約束している7600万回分のワクチン製造は同社の米ノースカロライナ工場に依存することになる。

- ・ 3月8日、モンリオールと周辺地域を除く州全域の警戒レベルがオレンジに引き下げられる。

- ・ 3月12日、モンリオールでワクチン接種対象年齢が65歳に引き下げられる。19日、州全域でワクチン接種対象年齢が65歳に引き下げられる。

- ・ 3月15日、モンリオールで開催された衛生措置に反対する集会に数千人が参加。警察は10人を逮捕、144枚の違反切符を発行。

- ・ 3月16日、メディカゴは、コロナワクチン候補承認申請前の最終段階となる第3相臨床試験を開始。変異株に対する予備試験も実施する。

- ・ 3月17日、ルゴー州首相は、州の祝日である6月24日までには希望者全員が1回目のワクチン接種を受けられるであろうと発言。

- ・ 3月22日、モンリオールで、ワクチン接種対象年齢が60歳に引き下げられ、薬局での接種も開始。

- ・ 3月25日、州政府は、新型コロナウイルスに感染した人に対しては、本人の希望

により1回のワクチン投与でも効果は十分であるとの見解を発表。

- ・3月25日、モントリオールで初めて、ニューヨークで広がっているナイジェリア由来の変異株（B1525）1例を確認。

- ・3月26日、警戒レベルが赤の地域で、ジムを含む屋内スポーツ施設が条件付きで再開。

- ・3月29日、州政府は、55歳未満の人へのアストラゼネカ製ワクチンの使用を見合わせると発表。

- ・3月29日、デュベ州保健大臣は、州に第3波が到来したと発言。

- ・3月31日、ルゴー州首相は、ケベック市、レヴィ、ガティノーに対するロックダウンを発表。学校での対面事業、レストラン、非不可欠業種店舗、映画館、美術館等が閉鎖に。州内4地域（Capitale-Nationale、Chaudiere-Appalaches、Outaouais、Bas-Saint-Laurent）は警戒レベルが赤に引き上げられる。

（2）大西洋州

- ・3月17日、大西洋4州首相は、4州内の自主隔離なしの往来を可能にする「アトランティックバブル」の4月19日再開を目指すことで合意。カナダの他州との往来規制解除については未定。

（3）ニューファンドランド・ラブラドール（NL）州

（州総選挙関連）

- ・3月25日、度重なる返送期日延期の末、郵送による投票が締め切られる。

- ・3月27日、結果発表：総議席数40のうち自由党22（改選前比+3）、進歩保守党（PC）13（▲2）、新民主党（NDP）2（▲1）、無所属3。少数派政権であった自由党政権が多数派政権を獲得。PCとNDPの両野党党首は落選した。パンデミックで大混乱となった選挙戦の影響で、投票率は48%とこれまでの過去最低（2015年の55%）を下回った。

- ・3月31日、落選したクロスビー進歩保守党党首は、党首辞任を発表。

（新型コロナウイルス関連）

- ・3月3日、州政府は、ワクチンをできるだけ、又、多くの人に1回目の接種を行うため、2回目接種までの期間を最大4ヶ月空ける方針に変更。

- ・3月13日、警戒レベルがセント・ジョンズ含むアヴァロン地域でレベル5（ロックダウン）から4に、その他の地域でレベル4から3に引き下げられる。州全域で高等学校の授業は対人距離がとれる場合を除きオンライン実施、グレード4（日本の小学4年にあたる）以上にはマスクの終日着用が義務付けられる。

- ・3月27日、州全域で警戒レベルが2に引き下げられる。バーや映画館の再開が可能に。

- ・3月29日、州政府は、55歳未満の人へのアストラゼネカ製ワクチンの使用を見

合わせると発表。55歳以上の人には引き続き使用する。

- ・3月31日、州政府は、州内初となる南アフリカ変異株1例を確認したと発表。

（4）プリンスエドワードアイランド（PEI）州

・3月12日、コンプトン州財務大臣は州予算を発表。2020年度は1.2億加ドルの赤字で終わる見込み。2021年度は支出25億加ドル、1.1億加ドルの赤字を予測。今後3年間で赤字を2700万加ドルにまで削減することを目指す。予算には観光業界再開支援のための助成金300万加ドル等が含まれる。

（新型コロナウイルス関連）

・3月1～3日、各種規制が強化される「サーキットブレーカー」フェーズ施行中の州全域で、警戒レベルがさらに厳しい「modified red」に引き上げられる。不可欠業種・施設閉鎖、集まり人数の制限強化、学校でのオンライン授業等。

・3月2日、州政府は、ワクチンをできるだけ早く、又、多くの人に接種するため、今後は2回目分は取り置かず全て1回目分として使用する方針に変更。7月1日までに16歳以上全員に少なくとも1回接種実施を目指す。

・3月11日、75歳以上の接種予約受付開始。また18～29歳の飲食業従事者に対するアストラゼネカ製ワクチン接種予約受付も薬局で開始。

・3月13日、「サーキットブレーカー」フェーズが終了。

・3月16日、18～29歳のアストラゼネカ製ワクチン接種対象が拡大。

・3月29日、65歳以上の接種予約受付開始。

・3月29日、州政府は、18～29歳の人へのアストラゼネカ製ワクチンの使用を見合わせると発表。

（5）ノバスコシア（NS）州

・3月9日、対面参加と遠隔参加両方を取り入れたハイブリッド方式で州議会が開会。

・3月11日、ランキン州首相は、次期州会計監査院長官に、前NB州会計監査院長官のアデア＝マクファーソン（Kim Adair-MacPherson）氏を任命。任期は5月3日より10年間。

・3月25日、ランキン政権による初の予算発表。125億加ドルの支出、コロナ関連支出が増え5.8億加ドルの赤字。4年で均衡予算に戻ることを目指す。予算の4割以上が医療部門に充てられ、介護、メンタルヘルス、所得補助等への支出が増額。

（新型コロナウイルス関連）

・3月16日、州政府は、ワクチンをできるだけ早く、又、多くの人に接種するため、今後は2回目分は取り置かず全て1回目分として使用する方針に変更。当面は2回目接種まで最大4ヶ月あける。

- ・ 3月20日、NB州から入ってきた人に対する14日間の自主隔離義務が解除される。
- ・ 3月20日、ハリファックス地域の規制が解除される。
- ・ 3月20日、60～64歳の人を対象としたアストラゼネカ製ワクチン接種開始。
- ・ 3月26日、ワクチン接種対象を75歳に引き下げ。
- ・ 3月31日、州内でこれまでに確認された変異種はイギリス株18例、南アフリカ株10例に。

(6) ニューブランズウィック (NB) 州

- ・ 3月16日、スティーブス州財務大臣は州予算を発表。2021年度は支出107億加ドルと2.4億加ドルの大幅な赤字を予測。均衡予算への見通しは明らかにせず。
- ・ 3月19日、州政府は、選挙戦中の新型コロナ変異株による状況急変に備え、選挙管理委員会に選挙を停止する権限を与える法案を州議会に提出。州では5月10日に自治体選挙が予定されている。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 3月8日、州全域の警戒レベルが黄色に引き下げられる。
- ・ 3月11日、85歳以上のワクチン接種予約の受付開始。
- ・ 3月12日、州政府は、接種計画のアップデートを発表。7月1日までに16歳以上で希望する全員に少なくとも1回の接種完了を目指す。
- ・ 3月19日、カーディ州教育大臣は、4月12日より高校での対面授業の全面再開を発表するとともに高校教職員へのワクチン接種を開始。
- ・ 3月24日、ワクチン接種対象を75歳に引き下げ。
- ・ 3月25日、エドマンズトンを含むゾーン4の一部の警戒レベルが赤に引き上げられる。29日、同ゾーンで警戒レベル赤の地域が拡大される。
- ・ 3月29日、州政府は、55歳未満の人へのアストラゼネカ製ワクチンの使用を見合わせると発表。55歳以上の人には引き続き使用する。
- ・ 3月31日、ヒッグス州首相(68歳)が1本目のアストラゼネカ製ワクチン接種を受ける。

【各州世論調査結果 (未確定分は除く)】

● 州政党支持率

- ・ PEI州 (ナラティブ・リサーチ (Narrative Research) 調べ (以下同じ)、2月2～16日): 進歩保守党 (PC) 57%、緑の党21%、自由党17%、新民主党 (NDP) 4%、その他0%
- ・ NB州 (2月2～17日): PC35%、自由党32%、緑の党20%、ピープルズ・アライアンス6%、NDP6%、その他0%
- ・ NS州 (2月8～27日): 自由党50%、PC26%、NDP18%、緑の党6%

・NS州(MQO調べ、2月10～15日):自由党51%、PC27%、NDP15%、緑の党4%、その他3%

7 経済

(1) QC州

・3月2日、連邦政府は、Contrecoeurの新コンテナ港建設を許可。7.5億加ドルが投じられる同港建設は、1日当たり100万コンテナ以上、トラック最大2400台の通行を可能にするもので、ここ数十年間で州最大規模の港湾プロジェクト。

・3月12日、カナダ統計局によると、州の2月の失業率は前月より2.4%改善し6.4%と2020年2月以来最低を記録し、国内でも最低を記録した。

・3月12日、バルドゥッキ(Philippe Balducchi)エアバス・カナダ社長は連邦下院委員会で、連邦政府の支援欠如は航空業界にとって危険なシグナルであると発言。

・3月15日、連邦・州政府は、電気バス・トラック製造のLion社の電気自動車用バッテリー工場建設支援に1億加ドル支出すると発表。両政府は5000万加ドルずつ、Lion社は8500万加ドルを支出する。プロジェクトは135人の雇用を創出し、工場はサン・ジェロームに2023年完成予定。

・3月19日、州政府は、AppDirect(本社サンフランシスコ)子会社がモントリオールにカナダ本社を設立するため5500万加ドルを支出。同社はクラウドサービス向けプラットフォームを提供しており、730人の雇用が創出される見込み。

・3月22日、連邦・州政府は、2022年9月までに州内全世帯を高速インターネットに接続するため8.2億加ドルを支出。両政府が半額ずつ支出するこの大規模プロジェクトは、地方部を中心とする約20万世帯の高速インターネットへのアクセスを可能にする。

・3月22日、アマゾンのビデオゲーム制作子会社Amazon Gamesがモントリオールスタジオ開設。米シアトル、オレンジカウンティ、サンディエゴに続くスタジオとなり、「全く新しいAAAタイトルブランド制作」を目指すとのこと。

・3月29日、州統計局によると、2020年末時点で州内20の経済部門のうち、農林水産、小売、金融、保険、医療、社会福祉等10部門はパンデミック前の生産水準を回復した一方、アート、ショー、娯楽、宿泊、飲食部門がパンデミックの影響を最も受けた。

(2) 大西洋州

・3月24日、ウエストジェットは、6月末からのカナダ東部路線再開を発表。トロント路線(シャーロットタウン、セント・ジョンズ、フレデリクトン、シドニー、モンクトン、ケベックシティ)とセント・ジョンズーハリファックス便が再開する。ウエストジェットは、再開に向け連邦・州政府に対し、移動に関する明確なルールのため共に取り組むことを求めている。

（３） Ｐ Ｅ Ｉ 州

・ ３月１８日、州環境・エネルギー・気候変動対策省は、２０２１年度予算に含まれる電気自動車購入に対する奨励プログラムの詳細を発表。電気自動車に５０００ドル、プラグインハイブリッド車に２５００ドルが支払われ、またレベル２充電器が支給される。州内を走る電気自動車は現状約１００台。

・ ３月１８日、州政府は、シャーロットタウン空港に１００万加ドルの財政支援を発表。同空港には現在モントリオール便しか運航していない

・ ３月２２日、州内でスクールバスのディーゼルから電気タイプへの切り替え開始。全部で３３２台のスクールバスは今後数年間で電気バスに切り替わる予定。バスはＱＣ州のリオン（Lion）社製。

・ ３月３０日、州政府は、関係団体と提携し好評のレストラン支援プログラム「Dine In and Save」に３７．５万加ドルの追加支出を決定。同プログラムは、日曜日から水曜日までの間、対象となる７０以上のレストラン内の食事が半額（１人あたり１５加ドル上限）になるというもの。

（４） Ｎ Ｓ 州

・ ３月３日、シペクネカティク（Sipekne' katik）ミクマク・ファーストネーションのサック（Mike Sack）チーフは、ファーストネーションによる「生計を立てるための漁業」は、商業漁業期間内の実施と、連邦漁業法にもとづいて発行されるライセンスが必要であるという内容を含む、協定締結に向けた計画をまとめた連邦漁業省からの書簡を公開。ＮＳミクマクチーフ議会は、連邦政府にはミクマクの漁業権を管理する権限はないと非難。

・ ３月１７日、液化天然ガスのメガプロジェクトを進めるピアリダイエナジー（Pieridae Energy）は、プロジェクト継続のため建設費用１３０億ドルのうち約１０億ドルの財政支援を連邦政府に求めているとの報道。同プロジェクトは、アルバータ州からパイプラインで届く天然ガスをゴールドボロ（州東海岸）に建設予定の施設で液化しヨーロッパに輸出するというもので、ピアリダイは既にドイツのエネルギー企業ユニパーと２０年間の供給契約を締結済み。

（５） Ｎ Ｂ 州

・ ３月１８日、連邦政府は、小型原子炉（SMR）開発企業 Moltex Energy Canada（本社セントジョン）に５０５０万ドルの財政支援を発表。Moltex 社は、使用済み核燃料を使用した小型原子炉を Point Lepreau 原子力発電所（セントジョン）敷地内に建設する計画を持つ。連邦政府は、小型原子炉設置準備支援のため同発電所を所有するＮＢパワーに５００万加ドル、関連技術研究支援のためニューブランズウィック大学電子エネルギー研究センター（Centre for Nuclear Energy Research）にも５６万加ドルを支出する。

・ ３月１９日、州政府は、大麻販売公社カナビスＮＢ民営化計画を撤回。２０１８年の

創業当初は業績不振が続いていたが、その後売り上げが向上していた。

・ 3月23日、セントジョン市議会は、市内の小売店における使い捨てプラスチック袋禁止を決定。7月1日より施行予定。

[在モンリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン購読登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン購読登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モンリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下の URL をクリックすると閲覧いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（www.kantei.go.jp）

外務省ホームページ（www.mofa.go.jp/mofaj/）

在カナダ日本国大使館ホームページ（www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館ホームページ（https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館 Facebook（www.facebook.com/JapanConsMontreal）

当館 Twitter：@JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モンリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

（emagazine@mt.mofa.go.jp）までご相談ください。

■-----■